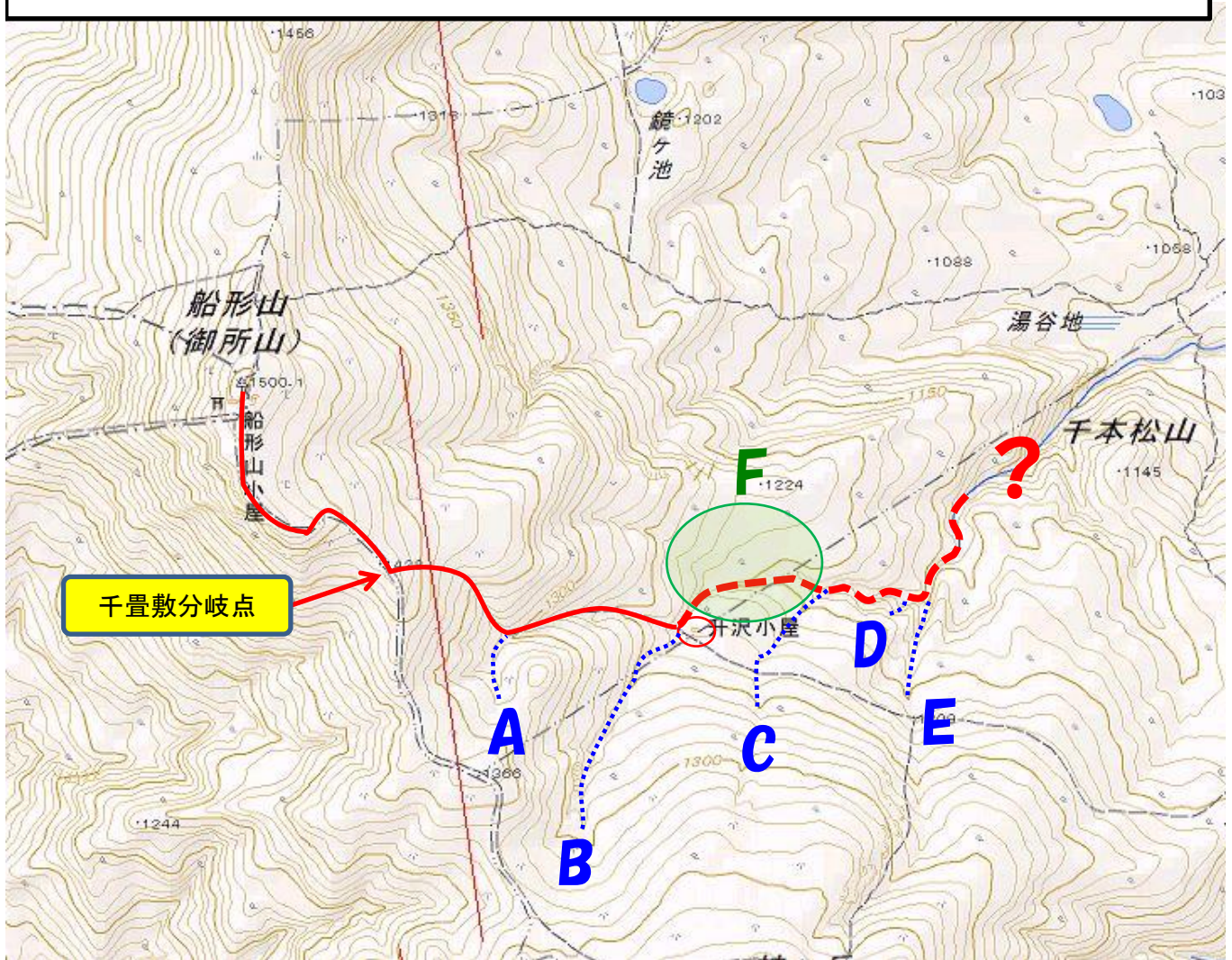


船形山道迷い(2014年10月)

升沢小屋までは、沢を下る道。この沢から升沢小屋へ行く分岐が分からず、そのまま沢を下ってしまう。おかしいと気づき、下った沢を上り返し、登山者に出会うことができたため事なきを得た。



解説

沢の道が荒れていた場合、沢なのか道なのか分からない場合が多い。今回の事例は、「沢を下ると升沢小屋が出てくる。」といった単純な予測から道迷いになったものと思われる。

迷われた方は、「本当に、このルートであっているのか!？」と自問自答。しかし、道迷いの不思議は、「何十分も掛けて、ここまで、沢を下りてきた以上は、今更、引き返せない。下りるしかない。」となるわけです。

さらに、沢を下り続け、水深1~1.5メートルの沢の深みと、かなり極端な勾配が目の前に広がって初めて、「これは、絶対に、ルートが違う・・・」となるわけです。

迷われた方は、ルートが違うと確信してからの行動は冷静で遭難までには至らなかったのが幸이었다。

- ①Bの千畳敷分岐点から2つの目沢の合流が出てきたら、船形小屋が近い。
- ②C・D・Eの沢が出てきて、沢もクネクネしているので、明らかに下りすぎている。
- ③Fの地点は沢が広がっていて、平らであるから小屋から少し下ってしまった。
等の事前の予測が重要である。